

富士山麓病院介護医療院新聞 第163号

富士山麓クリニック



御殿場駅前広場に設置された富士火山弾

《症例検討・110》

方便の嘘

院長 清水允熙

今回は、八十歳の男性Tさんの例です。Tさんには特記すべき既往症はありません。

Tさんが次女に連れられて当院に来てから四ヶ月が過ぎました。Tさんには長男、長女、次女がおり、上の二人は結婚して家を出ています。孫もいます。次女は四十二歳で独身です。Tさんと一緒に生活してきました。と言うより、Tさんの面倒をみてきたと言った方が適切でしょう。

Tさんが妻を亡くしてから二十五年が経ちます。数年前から認知症の症状が出現しましたが、現在の状態は中程度です。

【経過】

Tさんは、入院した最初の頃は、何となく元気がないように見えたが、二、三週間もたつとも元気になりました。

理由ははっきりしませんが、スタツプが明るく接していることと、次女を誉める会話をしているからかもしれない。特に次女が誉められるとき、Tさんは相手を崩し、とても嬉しそうにしています。

このようなTさんに、次女は時々面会に来ます。そして「父はうつ病なのです。よろしくお願ひします」と言つて帰ることがあります。しかし、私たちが話をしていくときの印象では、Tさんはうつ病ではなさそうです。その後、次女は「父はうつ病なのです。『死にたい、死にたい』とすぐに言います。私もうつ病でクリニックにかかっています。抗うつ剤を飲んでいるので元気でいられます。父にも抗うつ剤の使用をよろしくお願ひします」と言つて帰ります。

ある日、私はTさんに聞いてみました。

私「天気が悪くて嫌ですね」

T「そうですね」

私「こんな天気ですと、私は体の調子が悪くて元気がなくなつてしまふんですよ」

T「私だつてそうですよ。でも先生はまだ若いでしょう」

私「いやあ、もう若くないですよ」

T「私からみればまだまだ若いですよ」

私「でも、体の調子がとても悪いと、生きていくのが嫌になつてしまうのです。Tさんは生きているのが嫌になることはないですか」

T「うん、ないなあ」

私「あ、そうそう、娘さんがまた会いに来てくれますよね。来週ですね。いい娘さんですね。優しくして……」

T「ええ、あの娘はいい娘で……」

私「Tさん、娘さんは気が強いでしょう？」

T「小さい頃は気の弱い優しい娘でしたが……。私が気の強い娘にしてしまったんですよ」

私「そうですね」

T「結婚したいと言われたときも反対したし……」

私「そうですね」

T「私はあの娘の迷惑になるようなら死んでしまひますよ」

私「死んだら娘さんが悲しむでしょう。お父さんのこと、大好きな娘さんですよ」

T「迷惑をかけるのは嫌……。だからなんです。あの娘のためなら喜んで死にますよ」

数日後、娘さんから手紙がきました。

「私の父はうつ病です。是非、うつ病の薬を使用してください。私もうつ病ですが、今のようにしていられるのは薬のおかげなんです。ですから父にも、もつと元気になつてほしいのです。いつも『死にたい、死にたい』と言つています。精神科の専門医に診てもらえるように計らってください。是非お願ひします」

以上のような手紙でした。

次に会う日を約束しました。約束の日には娘さんと話をしました。娘さんは相変わらず父のために抗うつ剤を使用してほしいと言いました。

私「私にはお父上がうつ病だとは思えないのです。お父上がうつ病だと診断されたのはいつ頃のことですか」

娘「二十五年位前です」

私「ということは、お母様が亡くなられた頃ですね」

娘「そうですね」

私「そのときの医師は何科の先生ですか」

娘「内科の先生でした」

私「そうですね。それで、その後ここに入院されるまでの間、うつと抗うつ剤を飲んでこられたのですか」

娘「そうですね」

私「現在、お父上は抗うつ剤を飲んでいません。それでも特に変わりありません。今の状態なら、このまま薬を中止しても大丈夫だと思います。もし悪くなるようでしたら、そのときは使用することにしたらいかがでしょう。できるだけ不必要な薬は飲まない方が、体のためには良いですよ」

娘「でも父は『死にたい、死にたい』と言っているのですよ。もしもということもあるでしょ

う？」

私「確かにそういうことがないとは言い切れません。しかし、現在はうつ病の状態ではないのです。そのような症状が出現してきたら処方させていただきますということでは駄目ですか」

娘「……」

私「お父上はあなたの人生を自分が駄目にしたのではないか、と思っただけです。」

例えば、今のような自分がいるからあなたが結婚できないのではないか、自分の教育の仕方が間違っていたのではないか、などと最近まで考えていらつしやうたようですよ。そして今でも『もしそうなら、私は死んで娘にお詫びしよう』と考えているのです。したがって、あなたがお父上に面会するとき、あなたが困っていることや苦しんでいることなどで弱音を吐いたりすると、お父上は混乱して『死にたい、死にたい』と繰り返し返されるのだと思います」

私「お父上はそのくらい、あなたのことを大切に思っています。」

どうでしょう、私みたいな医師に抗うつ剤を使用させるより、あなたご自身がお父上を元気にして差し上げたなら。そうすれば、お父上はこれからの人生を幸せな人として送ることが出来ますよ。終わりをければ、すべてよし、と言いますもの」

娘「私は父に何をすればいいのでしょうか？」

私「例えば、『私が結婚しようとした人はまだ若いのに癌で亡くなりました。もし結婚して、子供に癌の体質が遺伝していて、癌になって死んだりしたら、悲しすぎですよ。それから私は最近良いことが多い。すてきなお友達がいっぱいできたし、仕事も上手くいって誉められるし、とつても幸せなのよ』などと言っただけでいい。嘘でもいいから、あなたがとても楽しい生活を送っていることを、お父上に話してあげてください。言葉を変えて、繰り返し繰り返し何度でも、幸せなことを話してあげてください」

娘「父に嘘をつくのですか？」

私「よいではありませんか。父上が今よりお元気になるためには、あなたの嘘が最高の良薬になる可能性は大きいのです。もしこの方法でお父上に元気が戻らなければ、あなたのおつしやる通り抗うつ薬を使用させていただきますましよ」

娘さんとの話し合いは、この日はここまででしたが、その後のTさんの経過は良好でした。娘さんが協力してくださったからでしょう。

【まとめ】

娘さんは嘘をつくことにはならなかったでしょう。娘を心配してくれる父がいて、娘はそのような父の面倒をみてあげて……このような父にも、娘にもしあわせがないはずはないのです。



富士山麓病院介護医療院 富士山麓クリニック

〒412-0006 静岡県御殿場市中畑1932



本院は40年以上にわたって培った臨床経験を活かし「早期発見」と「適切な診断・対応」を中心に認知症の専門的な治療を行っています。ご相談・お問い合わせなど、お気軽にお電話下さい。



TEL 0550-89-5671 FAX 0550-89-8017

年頭所感

副院長

清水 隆志

あけましておめでとうござい
ます。

利用者さん、そのご家族のみ
なさま、外来通院されておられ
る患者さんにおかれましては、
平素より当院の治療理念にご理
解いただきありがとうございます。
また、富士山麓病院介護医
療院の入所者さんや富士山麓ク
リニックの外来患者さんの検査
治療にあたってくださっている
内科系・外科系の先生方には、
多大なるご協力をいただいてお
り、改めてこの場をお借りして
御礼申し上げます。

さて、昨年より、当院は放射
線科 大鐘医師を招聘し、患者
さんの脳画像の読影をお願いし
ております。清水院長の開院以
来の理念と放射線科からみた認
知症の最新の知見を組み合わせ
カンファレンスしながら、日々
の診察を行なっていきます。昨
年は新型コロナウイルス感染症

の蔓延を鑑み、認知症カフェ開
催の延期をせざるを得ませんで
した。本年は感染状況をみなが
ら開催を検討していきたいと考
えています。院長が開院以来、
もの忘れやそこから派生する様
々な問題を抱えた患者さんやそ
のご家族と接し、試行錯誤し、
対応し、症状を改善してきた考
え方やノウハウを少しでも皆様
にお伝えすることができたら幸
いでです。

◎ 現在、コロナ禍においてはソ
ーシャルディスタンスが求めら
れる社会となりました。私たち
は人間同士の心の絆を今まで以
上に築いていくことが今後はさ
らに重要になっていくと考えま
す。当クリニックは、認知症だ
けでなく様々な精神疾患に対応
していますが、患者さんご本人
はもちろんそのご家族に少しで
も希望の光がさすように今後も
邁進していききたいと思ってお
ります。

本年も変らぬご指導、ご鞭撻の
ほど、よろしくお願ひ申し上げ
ます。皆さま方のご健勝とご多
幸を心よりお祈り申し上げます。



人生行き当たりばったり

長田 尚久

約十年間の東京生活に別れをつけ、二〇一九年十月末日、私は東京からここ御殿場へと戻ってきた。新型コロナウイルスが流行る前のことであり、そのタイミングはまるで神のお告げがあったかのようにも思える。何故帰ろうと思ったのかを今思い返してみると、いくつかの節目があったからではないかと感じている。

一つには令和という新元号を迎えたこと、二つ目に三十歳という年齢になったこと。この二つがあったからこそ、何か新しいことを始めたいという気持ちと、このまま東京で暮していく自分の将来を考えたとともに、実家へ戻るといふ選択肢が生まれたのではないかと思う。おそらく当時はそこまで考えていたわけでは無いがそういうことにしておくことにする。そして三つ目の理由として、占いやオカルト的なものには否

定的でも肯定的でもない私がこの時ばかりは神の判断に委ねようと思っていたのか、悩んでいる最中に川崎大師でおみくじを引いたのを覚えている。

引いた結果は「大吉」。詳しくは何が書いてあるかは忘れてしまったが今やろうとしていることが上手く良い方向に進むということが書いてあり、これが決め手になった。つまりは自分の直感的なものを信じ、あまり深く考えずに行動を起こしたのである。

戻ってきてから一年が過ぎ、富士山麓病院介護医療院に入職してから一年が経とうとしている。この一年間はあつという間のようにも感じたし、まだ一年しか経っていないのかと思うほど濃密な一年であった。結果としては、御殿場へ戻ってきたことが正解の選択肢であったことは間違いないだろう。

東京に居たときの仕事は苦ではなかったし、給料も良かったのでそこそこの生活が出来ていたとは思いますが、今こうしている自分に前の生活に戻りたいか？と聞くと即答でNOと答える。

それはここ富士山麓病院介護医療院で学んだ「認知症」についてのことがあるからである。

認知症という病気そのものに対する知識や清水理事長が提唱する「生活史型認知症」、認知症の予防・治療に対しての知識自分が持っていた認知症に対する考えを改めることとなり、それは今の自分の中に足りないものがあるということを知り、改めてくれた。

入職して一年が経つがまだまだ自分は半人前にも満たないと感じている。より多くの認知症に対しての知識や対応法を学び、職員全員が目指している「優しい人」となれるよう日々努力を重ねていきたい。

そして、その知識を活かし、家族との団欒を大切に幸せな人生を過ごしていけるようにしていきたいと考えている。



季節の小窓

吹き晴れし大つごもりの空の紺
星野 立子

大年の法然院に笹子ある
森 澄雄

去年今年貫く棒の如きもの
高浜 虚子

ずたずたの大地に我ら去年今年
長谷川 耀

元日や手を洗ひをる夕ごろ
芥川龍之介

妻の座の日向ありけり福寿草
石田 波郷

つぎつぎに子ら家を去り鏡餅
加藤 楸邨

冬桜ふゆのさなかにちりをへぬ
大川ひろし

二重虹のかかった朝

草間 由美子

富士山に大きな二重の虹がかかった朝、九月十日の早朝に、父が穏やかで安らかな眠りにつきました。

人生最期の時、認知症専門病院で過ごせたことを家族で感謝しています。コロナ禍のさなかでしたが、認知症の父を受け入れ、転院させていただいたこと、困っていた私たち家族に、病院スタッフの方々が本当に優しく親切に接していただいたこと、父の入院中のことを思い出しています。

特に嬉しかったことは、コロナ禍で面会ができず、心配でしたが、「オンラインの面会」をさせて頂けたことでした。

オンラインの面会では、入院の日数が長くなるほど、父の表情が生き生きと見ていったことに、とても驚きました。入院前、相談員の方が父への丁寧な生活

史のヒアリングをしてくださいました。そして、会話・行動ケアチーム(CAC)の方々が、認知症改善薬に頼らない改善方法である「会話・行動対応法」によつて父を安心させ、改善させるために日々サポートしてくださっていたことを知りました。

ある時、CACチームの方が撮つてくださった写真を、父の元ケアマネさんに見ていただく機会がありました。そのケアマネさんは「入院する病院によつてこんなに変化があるのには驚きました。とても勉強になりました。近くにこのような病院があつてくれたらいいのに」と、父を実際に見て頂いた方なので、この大きな変化にとても驚いていらつしゃいました。

CACチームの方が撮つてくださった写真は、家族全員の一対で父の遺影の写真となり、いま、自宅のリビングで爽やかな笑顔を見せてくれています。

病院のスタッフの方々は忙しいなか、私たち家族にまで気

をくばっていただき、優しく接してくださいました。コロナ禍のため病院に行く回数は少なかったのですが、行くのが楽しみでした。玄関先で検温をしてくださる女性のスタッフさんに会えるかなとか、ササッと私の靴を下駄箱に入れてくださる男性スタッフさんに会えるかなとか、オンライン面会申し込みの時、LINEの返信をしてくださるスタッフさんに会えるかなとか、明るい気持ちで病院に行くことができました。

父が大好きだった富士山。

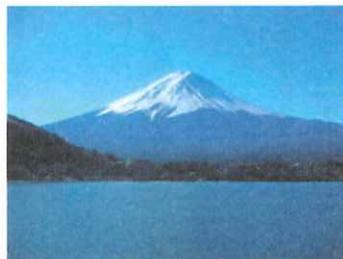
富士山に大きな二重の虹がかかったとき、父は穏やかで、安らかな眠りにつきました。私たち家族は父に対して、富士山麓病院に転院させてあげられたことが「最高の親孝行」だったと、感じる事ができました。

理事長の清水先生、医師、看護師、栄養士、家族支援室、CACチーム、相談員さんやコロナ禍でお会いすることのできなかったスタッフさんの皆さん、本

当にありがとうございます。

新谷幸義の娘

草間由美子



新聞の報道では左記のように記されている。

「九月十日早朝、富士山麓地域で二重の虹が現れ、山中湖村では富士山に掛かる虹が山中湖の湖面に映る様子が確認できた。」